



近畿地区建設工事安全対策推進協議会^{※1} (舗装部会)安全パトロール報告



平成27年11月5日、近畿地方整備局、舗装部会、元請会社との合同パトロールが行われました。

現場は交通量の多い現道における交差点改良工事です。
現地での指摘と改善について、下記に内容を記載します。

※1 近畿地区建設工事安全対策推進協議会とは

建設工事における安全管理について更なる徹底を行うため、国土交通省と直接工事を施工する建設業各団体との意見交換、また事故対策について具体策の検討を行い具体策を講じるなど、労働災害の防止の取組みとして、平成5年2月9日に設立しました。協議会の下には5つの部会(土木・建築、舗装、鋼橋、PC、設計)を設置しています。



バリケード関係

指摘内容

- 長期間動かさないバリケードの固定と通りの修正



バリケード関係

改善内容

- バリケードの固定し通りをあわせる



設備関係

指摘内容

- 交差点付近における夜間点滅等の追加が必要



設備関係

改善内容

- 夜間点滅機を追加



その他の主な指摘と改善内容について

- 工事エリアへの関係者以外の立ち入り禁止を明示 → 工事関係者以外の立ち入り禁止の明示を増やし、注意喚起を行った。
- 架空線のある現場に立て看板で高さを明示 → 架空線までの高さを明示した看板を設置し、注意喚起を行った。
- 工事看板の止めねじ補修 → 止めねじで固定し、飛散防止を行い、第三者被害防止を行った。
- 砂置き場の飛散養生 → 防災シートを引き、かつ、ゴムマットで固定した。
防災シートは燃えにくく、また、風や水を通さない為、雨等で砂が流れ出るのを防ぐことができる。
- 現場内敷き鉄板のがたつきの修正 → 不要な鉄板を撤去し、転倒防止を行った。
- 残土置き場横の清掃 → ゴミの清掃を行った。工事区域外への飛散防止やごみを捨てられることもなくなる。

合同安全パトロールでは現場での更なる工事事故防止(減少)を目的に、工事関係者以外の目線で安全管理について確認、指摘し、改善を図っています。

上記の指摘及び改善内容について、各現場において安全点検に活用し、一層の工事事故防止に努めていただくようお願いいたします。

地下埋設管を損傷する事故が増加中！

今年度に入り、地下埋設管を損傷する事故が多発しています。

上半期の発生件数は前年度とほぼ同じ、5件も発生しています(先月、あんぜん第254号参照)。

掘削作業等地下埋設事故発生が予測される工事におきましては、埋設物の事前調査、埋設物管理者との事前協議及び立会、試掘により、地下埋設管やケーブルをしっかりと確認、マーキングを行い、地下埋設管の事故防止に努めてください。

事故概要

工事区域への立入防止のためのロープ設置作業において、人力にて鉄ピンをうちこんだところ、埋設されていた水道管を破損した。

原因

打ち込み作業における埋設物の事前調査を実施していなかった。
(→鉄ピン(φ30mm)の打ち込み作業であり、埋設物件があっても、当たらないであろうという思い込みがあった)

防止策

埋設物の事前調査、管理者との事前協議及び立会の徹底
埋設物等支障物に対する危険箇所について現地での試掘を実施



損傷箇所

簡易水道
PEφ30

地下埋設管等破損事故防止の一般的な事例

埋設物事故の再発防止策

○危険箇所について、**試掘を行い現場に位置と深さを明示**

- ・試掘箇所は、カッターを入れずにはつりのみとする
- ・探査機にて埋設位置・埋設深を調べ、**路面にマーキング**を行う
- ・はつり方法は、ブレーカーにて埋設管に影響の小さい箇所から、**ブレーカー→チッパー→ハンマにて慎重に取り壊す**
- ・掘削内に管路がある場合は、探査機にて細かく測定、影響範囲を測定する
- ・浅埋設場所は、朝礼時に説明、指示をする

○危険箇所(横断水路)の**チェックリスト**を作成する

○作業ミーティングで従事者全員に**危険箇所**を周知する

チェックリスト

測定場所	確認項目	工区担当	現場代理人	監理技術者	品質証明員	支店安全衛生管理者
		○	○	○	○	○
No.○○ +0m	試掘箇所はどの種か	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/2レ
	試掘方法どの種か	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/2レ
	探査機で測定したか					
					
					
	管線深のデータをマーキングしたか					
	影響範囲が明示されたか					
	作業員と打ち合わせをしたか					
	作業員と場を認識したか					
					
No.○○ +0m	試掘箇所はどの種か	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/2レ
	試掘方法どの種か	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/1レ	5/2レ
	探査機で測定したか					
					
					
	管線深のデータをマーキングしたか					
	影響範囲が明示されたか					
	作業員と打ち合わせをしたか					
	作業員と場を認識したか					
					

もらい事故等の防止に向け、再度、安全確認を！

今年度は工事等事故発生件数が減少していますが、一方、もらい事故が増加しています。

昨年度上半期の31件に対し、今年度は39件と8件増加している状況です。

また**11月においては月前半で6件も多発しています。**

もらい事故は、死亡事故、重大事故等につながりかねない事故です。

単に一般ドライバーの運転中の不注意が原因のもらい事故もありますが、もらい事故が複数発生する工事や道路通行上、見通しの悪い箇所での交通規制を行う工事など、ドライバーの視点にたつて、再度、交通規制のための安全施設が不足なく、交通管理者との協議どおりに適切に配置されているか、現地確認していただくようお願いいたします。

もらい事故は少しの安全対策の工夫により、防ぐことが可能です。

今年も残すところ、あと1ヶ月あまりとなりました。年末を迎えるにあたり、より一層、もらい事故についての防止を図るべく、工事現場関係者への周知、徹底をお願いします。